

# 公益の風 #57

東北公益文科大学 学長

神田直弥



この春、東北公益文科大学は大きな節目を迎えます。2026年4月から本学は公立大学として新たな歩みを始めます。本学は2001年の開学以来、「公益」を理念として掲げ、地域とともに歩んできました。学生が地域の企業や自治体、地域で活動されている方々と協働しながら課題解決に取り組む教育や、地域社会に根ざした研究活動など、さまざまな取り組みを庄内の皆さまとともに進めてきました。地域の方々に支えられながら大学が育ってきたことに、あらためて深く感謝申し上げます。

今回の公立化は、単なる運営形態の変更ではありません。人口減少が進み、地域社会のあり方が

## 地域とともに歩む大学の新しい出発



鶴岡キャンパス：大学院 公益学研究科

変わる中で、大学が果たす役割もいっそう重要になっていきます。若い世代が地域で学び、地域の課題に向き合い、そして地域の未来を担う人材として成長していく。そのような学びの場を地域の中に持ち続けることは、若い世代の挑戦や活動が地域に新しい活力を生み出すという点でも、大きな意味を持ちます。

本学はこれまで学校法人東北公益文科大学によって運営されてきましたが、今後は山形県と庄内地域の自治体の支援のもと、公立大学として新しい体制で運営されることとなります。これは、大学を地域の共有財産として位置づけ、将来にわたって安定した教育研究の基盤を築いていくための大きな一歩でもあります。

公立化によって大学の使命が変わるわけではありませんが、これまで以上に地域との結びつきを強め、地域の課題に向き合う大学であり続けたいと考えています。地域社会の中で活動する学生が増え、自治体や企業、NPOなど多様な主体と連携しながら新しい価値を生み出していく。そのような学びの機会を、これからも地域の中で広げていきたいと考えています。

公立化によって大学の使命が変わるわけではありませんが、これまで以上に地域との結びつきを強め、地域の課題に向き合う大学であり続けたいと考えています。地域社会の中で活動する学生が増え、自治体や企業、NPOなど多様な主体と連携しながら新しい価値を生み出していく。そのような学びの機会を、これからも地域の中で広げていきたいと考えています。



酒田キャンパス：公益学部、国際学部

境問題や経済のあり方など、地域が直面する課題の多くは世界の動きとも深く関わっています。庄内という地域に根ざしながら、世界とつながる視点を持つことが、学ぶことが、

これからの時代にはますます重要になります。地域社会の国際化や多文化共生を支えながら、グローバル社会の持続可能な発展にも貢献できる人材が育つことを期待しています。そしてそのような学びを通して、新しい時代を切り拓く人材が育つことを願っています。

また、公立大学となることで、庄内だけでなく全国から多様な学生が集まることも期待されます。地域の若者と、さまざまな地域から集まった学生が共に学び、交流し、地域の未来について考える。その中から新しい発想や挑戦が生まれることを楽しみにしています。

この中で初めて新しい可能性が生まれます。本学が掲げる「公益」という理念も、まさにそのような協働の中で実現されるものだと考えています。公立化はゴールではなく、新しいスタートです。これからの時代において、地域社会が直面する課題はますます複雑になっていくでしょう。そのような中で、大学が地域の皆さまとともに課題について考え、新しい取り組みに挑戦する場となり、次の世代が希望をもって未来に踏み出せる環境をつくるのが重要だと感じています。

庄内の豊かな自然や文化、そして人のつながりの中で学生が学び、成長していく姿は、この地域ならではの大学の価値でもあります。若い世代の挑戦が地域の活力につながり、その地域の魅力がまた新しい人を引き寄せます。そんな好循環を生み出す大学でありたいと思います。

これまで本学を支えてくださった地域の皆さまに、心から感謝申し上げます。公立大学として新しい一歩を踏み出す本学を、これからも温かく見守り、ともに育てていただければ幸いです。庄内から未来を担う人材を育てる大学として、地域とともに歩み続けてまいります。